

英語科目についての概要

総合英語について（必修科目：1、2 年次）

1. 目的および目標

1、2 年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1 年次）については、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養だけでなく、英作文とプレゼンテーション技能の基礎的訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1 年次）は、総合英語 A I / A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に 4 技能を訓練する。読解力については、ペンギン・リーダーズ（level 4）やオックスフォード・ブックワームズ（stage 5）などの国際的な読解レベルを目標としている。

総合英語 C I / C II（2 年次）は、総合英語 A I / A II や B I / B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。さらに、上級英語（選択科目）や各学科の英語科目への橋渡しとなる科目でもある。なお、GPA の高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話、作文とプレゼンテーション。）

総合英語 B（読解を中心とする 4 技能。聴解、作文、プレゼンテーションなども行なうことがある。）

総合英語 C（総合英語 A、B を発展させた内容。三つのテーマからの選択制。）

3. 履修上の注意

- 1) 出席率が 3 分の 2 以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第 11 条 2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず担当教員に事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

中級英語について（選択科目：1 年次以上）

1. 目的および目標

総合英語 A、B と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。意欲的な学生に幅広く対応している。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、視聴覚授業、海外語学研修準備講座、等を随時展開している。外国人と日本人教師の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1) 同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を 2 コマなど）
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について（選択科目：2 年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1) 履修する学生は、総合英語 A と B を履修していることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
 - 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
 - 3) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を 2 コマ、など）
 - 4) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
 - 5) TOEIC スコア（600 点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。
- （注）大学院においても英語（ラクストン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡をとること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long, Ian Ruxton, Chris O'Sullivan,
Andrew Watt, Mason Lampert, Andrew Gallacher,
Huw Tyler, Akiko Kuriyama, Chiaki Sameshima

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Self-introductions.
2. Meeting new people.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 17:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

総合英語 A II Comprehensive English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long, Ian Ruxton, Chris O'Sullivan,
Andrew Watt, Mason Lampert, Andrew Gallacher,
Huw Tyler, Akiko Kuriyama, Chiaki Sameshima

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 17:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを覚えるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
第2回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
第3回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
第4回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 III
第5回 新聞・雑誌の英語 I
第6回 新聞・雑誌の英語 II
第7回 新聞・雑誌の英語 III
第8回 新聞・雑誌の英語 IV
第9回 エッセイの英語 I
第10回 エッセイの英語 II
第11回 エッセイの英語 III
第12回 エッセイの英語 IV
第13回 プレゼンテーション I
第14回 プレゼンテーション II
第15回 総評

5. 評価の方法・基準

平常点（30％）小レポート（40％）期末レポート（30％）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行う。十分な評価を得られなかった場合には、メイクアップをすること。
- ・自己学習の際には、図書館 1 階の CD、DVD や英字新聞等を利用すると良い。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡をすること。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・HP：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・応用化学（人間科学科目）
学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 7 Hydrogen Beer
3. “
4. 発表
5. Topic 14 Knowing Where You Stand
6. “
7. 発表
8. Topic 19 South Korean Moms Pray for Student Success (I)
9. Topic 20 South Korean Moms Pray for Student Success (II)
10. Topic 19, 20の続き
11. 発表
12. Topic 22 Okinawans
13. “
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40％、発表 10％、期末試験 50％で評価する。総合評価で 60％以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 教科書・参考書

教科書：

1. Multiple Voices from around the World (朝日出版社) 830.7/K-116
2. World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills 830/C-6

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Crops for Food or Fuel?
3. Oceans Awash in Toxic Plastic
4. Global-warming Super Typhoons
5. Slingshot: Water Purification Innovation
6. Engineering Earth is Possible
7. Engineering Earth is Possible
8. Review
9. Making Stem Cell Therapy into Reality
10. Learning from the 2011 Tohoku Tsunami
11. Gigantic Oil Spills and Clean-ups
12. Public Construction Projects Under Review
13. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
14. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：

1. Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834
2. Practical Situations for the TOEIC Test Listening (Seibido) 830.7/Y-32

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
総合システム工学科・マテリアル工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。また、リスニングについては、英語でのコミュニケーションに必要な語彙だけでなく、コンテキストの理解を助ける教材を用いることで、実用的な力を身につけることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Thinks ... (1)
3. Thinks ... (2)
4. Thinks ... (3)
5. Locked in Place (1)
6. Locked in Place (2)
7. Locked in Place (3)
8. Review Test 1
9. Why the Mind is in the Head (1)
10. Why the Mind is in the Head (2)
11. Why the Mind is in the Head (3)
12. Why the Mind is in the Head (4)
13. Of Headless Mice ... and Men (1)
14. Of Headless Mice ... and Men (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：PRISM（研究社）ISBN: 4327421588

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）
Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6
（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：応用化学・総合システム・建設社会

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

科学技術や環境問題、自然などの様々な科学に関する題材に英語で触れることで、科学論文の読解能力の基礎を培うことを目標とする。また、与えられた英文の構造、組み立て方を学ぶことで、自らの興味のある題材を英語を用いて発信する能力を育成する。

2. キーワード

科学技術、環境問題、読解力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Welcome to My Bower
3. Memory
4. Exotic Species
5. Smells Like Trouble
6. Seven Sisters
7. Review Activity 1
8. Danger-Detecting Animals
9. Denizens of Antarctica
10. Sky Watchers
11. One-Celled Wonder
12. Coral Reef
13. Wind Power
14. Moon Rocks
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- ・授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Square（成美堂）ISBN: 9784791910830

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（詳細はオリエンテーションで伝える。）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・

総合システム工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニング&クエスチョンも行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 発表と評価
- 第3回 発表と評価
- 第4回 発表と評価
- 第5回 発表と評価
- 第6回 発表と評価
- 第7回 発表と評価
- 第8回 発表と評価
- 第9回 発表と評価
- 第10回 発表と評価
- 第11回 発表と評価
- 第12回 発表と評価
- 第13回 発表と評価
- 第14回 発表と評価
- 第15回 総評

5. 評価の方法・基準

平常点（30％）発表（30％）期末試験（40％）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。本文中の疑問点はオフィス・アワーを利用して解決しておく。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

- ・辞書
- ・授業で使用するプリントは HP に掲載するので、各自で確認し用意すること。

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Topic 1 Japanese Hit Cartoon Gets US Release
3. Topic 1 の続き
4. 発表
5. Topic 7 Island of Genius
6. Topic 7 の続き
7. 発表
8. Topic 10 The Wordy Woman and the Mute Man
9. Topic 10 の続き
10. 発表
11. Topic 12 From The Red Notebook (I)
12. Topic 12 From The Red Notebook (II)
13. Topic 12 の続き
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べること。

7. 教科書・参考書

教科書：

1. Multiple Voices from around the World (朝日出版社) 830.7/K-116
2. World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills 830/C-6

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・

マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. A Bright Future for LED Lights
3. Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
4. Civil Engineers Test New Concrete
5. Solar-powered Planes and Yachts
6. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
7. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Wave
8. Review
9. Electric Cars
10. Preparing for the Trip to Mars
11. 3D TV Gadget
12. Controlling Gadget with Your Own Thoughts
13. Gesture-based Computing
14. Gesture-based Computing
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- （1）授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- （2）英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- （3）3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：

1. Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834
2. Practical Situations for the TOEIC Test Listening (Seibido) 830.7/Y-32

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。また、リスニングについては、英語でのコミュニケーションに必要な語彙だけでなく、コンテキストの理解を助ける教材を用いることで、実用的な力を身につけることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Art of Loving (1)
3. The Art of Loving (2)
4. The Art of Loving (3)
5. The Science of Love (1)
6. The Science of Love (2)
7. The Science of Love (3)
8. Review Test 1
9. Gender Signals (1)
10. Gender Signals (2)
11. Gender Signals (3)
12. The Gay Side of Nature
13. Herland (1)
14. Herland (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：PRISM（研究社）ISBN: 4327421588

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：応用化学・総合システム・建設社会

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

科学、政治、歴史、若者文化、女性問題などの多岐にわたるテーマに関するやや難解な英文を読み解く力を育むことを目標とする。また、そのような多岐にわたる話題に関して、自ら知識を増やし、自分自身の意見を持つこと、さらに、その意見を英語で伝えることの練習をする。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Wired
3. Change is Coming
4. Everyday Should Be Earth Day
5. The Roots of Prejudice?
6. The "Story" in History
7. It's How You Play the Game
8. Want Not, Want Not
9. Galaxy Quest
10. Words To Live By
11. Family Values
12. We Can Work It Out
13. Adventures in Learning
14. Well Read
15. Review Activity 1

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用（携帯内臓辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- 毎回辞書を持参すること。
- 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- 授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：A World of Ideas（南雲堂）ISBN: 9784523177180

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（詳細はオリエンテーションで伝える。）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとめた文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation (1)
- 第3回 Explanation (2)
- 第4回 Explanation (3)
- 第5回 Essay (1)
- 第6回 Essay (2)
- 第7回 Essay (3)
- 第8回 Critiques (1)
- 第9回 Critiques (2)
- 第10回 Critiques (3)
- 第11回 Projects (1)
- 第12回 Projects (2)
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点（30％）発表（30％）小レポート（40％）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- ・三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・自主学習として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 1. インTRODakション
- 2. Unit 1 My Club Activities
- 3. Unit 2 How Committed Are You to Learning English?
- 4. Unit 3 What Do You Want to Do with Your Life?
- 5. Unit 4 My Part-time Job
- 6. Unit 5 How Do You Keep Fit?
- 7. アウトライン発表会
- 8. スピーチ・コンテスト予行演習
- 9. スピーチ・コンテスト
- 10. スピーチ・コンテスト
- 11. スピーチ・コンテスト
- 12. スピーチ・コンテスト
- 13. スピーチ・コンテスト
- 14. スピーチ・コンテスト
- 15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50％、スピーチ 50％で評価する。総合評価で 60％以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Your First Speech and Presentation（南雲堂）836.7/T-1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The March of the Microbes
3. Genetic Doping
4. Ethics in Science
5. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
6. World Population
7. After the Peak Oil Crash
8. Starvation, Famine and Hunger
9. Nanotechnology
10. Efficient Cars
11. Cyborgs
12. Identity Theft
13. Chaos Theory
14. Comets, Meteors and Asteroids
15. Space Stations and Outer Space Exploration

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。（私語、内職、携帯電話等は厳禁。）
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Bruce Allen: Imagining Tomorrow (Seibido) 830.7/A-39/1

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

ものごとについて考えることを促す英文に触れ、英語での思考がどのようなものか考え、英文理解についてもレベルアップを目指す授業である。

2. キーワード

異文化理解、エッセイ、批判的思考

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. 導入。What makes people unhappy のブリーフィング
2. What makes people unhappy の英語表現確認
3. Fatigue のブリーフィング
4. Fatigue の英語表現確認
5. Envy のブリーフィング
6. Envy の英語表現確認
7. テスト
8. Affection のブリーフィング
9. Affection の英語表現確認
10. Effort and Resignation のブリーフィング
11. Effort and Resignation の英語表現確認
12. The Happy Man のブリーフィング
13. The Happy Man の英語表現確認
Chosen Passages のブリーフィング
14. Chosen Passages の英語表現確認
15. テスト
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：対訳ラッセル 1（南雲堂）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

バートランド・ラッセル『幸福論』133.5/R-11

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 C I (アドバンスト) Comprehensive English C I

対象学科(コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

現代文化の諸問題について、英語で読み、聞き、話し、書く練習をなるべく多く行い、実践力を身につけることを目指す。

2. キーワード

ディスカッション、時事問題、批判的思考

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction (American Supremacy)
2. Anorexia
3. Art as a Joke
4. Bad Sport
5. Beauty
6. Detension
7. Review Test 1
8. Driven Mad
9. Drug Control
10. Fashion Statement
11. Fighting AIDS
12. Food Safety
13. Global Control
14. Hidden Politicians
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書: Ideas and Issues: Advanced (Macmillan) 830/H-14/1
参考書: 新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00) (総合教育棟 3 階: S313)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

国際的な雑誌の記事を読むことで、英文の読解能力の向上を目指す。また、今日の国際社会で取り上げられている多種多様な社会問題を扱うことで、それらの諸問題に対する自らの意見を英語で発信する能力を高めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解、読解力、情報発信

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Japanese Language Goes International
3. The Japanese Language Goes International (2)
4. A Radical in the White House
5. A Radical in the White House (2)
6. Where do the Japanese Stand Today?
7. Where do the Japanese Stand Today? (2)
8. Review Activity 1
9. Sick with Worry
10. Sick with Worry (2)
11. A New Kind of Challenge
12. A New Kind of Challenge (2)
13. Towards a Brave New World
14. Towards a Brave New World (2)
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(課題、発表、小テストを含む)と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用(携帯内臓辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- 毎回辞書を持参すること。
- 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 教科書・参考書

教科書: Setting the Stage (研究社) ISBN: 4327421677

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(詳細はオリエンテーションで伝える。)

総合英語 C I (アドバンスト) Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

現代文化の諸問題について、英文読解の際に適切に、早く理解することを目標とする。また、英語を用いたディスカッション、ライティングを通して主体的に自らの考えを発信する力を身に着けることを目指す。

2. キーワード

時事問題、読解力、ディスカッション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Orientation
2. American Supremacy
3. Art as a Joke
4. Detention
5. The Coffee Shop Situation
6. Church Doctorine Barrier to Pacific Fight against AIDS
7. Review test
8. Food Labelling too much to swallow
9. Lost Language
10. Global Control
11. Hidden Politicians
12. Homeboys
13. Driven Mad
14. Beauty
15. Review Test 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(課題、発表、レポート、小テストを含む) 60%、学期テスト 40%で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用(携帯内蔵辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回英英辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Advenced (Macmillan) 830/H-14/1

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(詳細はオリエンテーションで伝える。)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

学生の専門と関わりを持つ、最新科学のトピックを扱う。「自然科学」、「人間科学と環境」、「21 世紀の革新」、「機械の科学技術」と多岐にわたる科学分野を正確に読み取る能力を養う。科学技術用語の習得及び、リスニング能力も培う。学生が将来、科学技術系の論文を英語で読む際に役立つことを視野に入れる。

2. キーワード

科学技術、自然科学、人間科学、環境、リーディング、リスニング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 2 Ocean Awash in Toxic Plastic
3. Chapter 4 Slingshot: Water Purification Innovation
4. Chapter 5 Engineering Earth is Possible
5. Chapter 8 Gigantic Oil Spills and Clean-ups
6. Chapter 10 Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
7. Chapter 12 Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
8. Chapter 16 Electric Cars
9. Chapter 17 Preparing for the Trip to Mars
10. Chapter 19 Controlling Gadgets with Your Own Thoughts
11. Chapter 3 Global-warming Super Typhoons
12. Chapter 6 Making Stem Cell Therapy into Reality
13. Chapter 11 A Bright Future for LED Lights
14. Chapter 18 3D TV Gadgets
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、充分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Avenue 最新の科学を眺める(成美堂)
ISBN：978-4-7919-1283-4

参考書：リーダース英和辞典(研究社)の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

このクラスではこれまでに学んだコミュニケーション力を基に、学習者にとって覚えにくく、間違えやすい英語表現を比較することにより、英語力を確実なものとし、更なる応用力を培うことを目標とする。さらに日常生活に関わる英語表現を身につけ、多種多様な英語に慣れることを目指す。

2. キーワード

日英比較 文化的基礎知識 基本的文法力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）
2. Live / Alive
3. Big / Large
4. Tall / High
5. All / Every
6. Many / Much
7. A Few / Few
8. Some / Eny
9. Books / Coffee
10. On / Off
11. In / At
12. By / Untill
13. Between / Among
14. Be / Do
15. 試験
16. 試験の解説等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Learn by Comparing (Aahi Press) 835/K-17

8. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語の使い方に慣れ、聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、学生の多様な興味に対応するため、「留学」「若いアスリート」「チョコレート・ストーリー」「音楽」など日常的话题をトピック別に編集してあるテキストを用いる。「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的话题、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Exact Time
3. Going Abroad
4. Movie Makers
5. Young Athletes
6. The Amazing Human Body
7. Leisure Time
8. A World of Music
9. Career Pathes
10. The Story of Chocolate
11. The Secrets of Advertising
12. Food and the Environment
13. Living for the Future
14. 多読に挑戦！
15. 期末試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表や提出物—20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

ACTIVE Skills for Reading 2 (Anderson, N.J.著、Heinle CENGAGE Learning) ISBN: 9781133308034

その他、適宜プリントを配布する。

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CD を活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、英語耳を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Recruitment Rethink
3. Unit 2 Less Is More
4. Unit 4 Unfolding Opportunities
5. Unit 5 Proactive Protection
6. Unit 6 Inner Vision
7. Unit 7 Noteworthy Trend
8. Unit 8 Catching Consumers
9. Unit 9 Toward Alternatives
10. Unit 10 Her True Colors
11. Unit 11 Clean Cut Vegetables
12. Unit 12 Dining and Signing
13. Unit 13 High-Tech Helpers
14. Unit 14 Snow Bound
15. Unit 15 Fresh-faced Men

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 7 (金星堂) ISBN: 9784764739536

8. オフィスアワー

授業時間前後

(連絡用メールアドレスはオリエンテーションで伝えます)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

複数の英字新聞から抜粋したやや長めの記事を題材に、今日の英語圏で起きていることを正確に読み取る訓練を行う。「生きた英語」に触れながら、新たな角度から物事をとらえたり、書かれたニュースの背後にある事実を目を向けていくと同時に、提起された問題についての自身の考えを英語で書く練習も行う。

2. キーワード

語彙増強、読解力養成、時事英語

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/The Japanese language goes international
2. The Japanese language goes international
3. Does language “difficulty” speak of a sense beyond mere words?
4. Towards a brave new world
5. A new kind of challenge
6. Memories are made of...history managed and manipulated?
7. Review
8. Where do the Japanese stand today?
9. New horizons beckon as Train Man heads nowhere fast
10. The stage is set for genuine change
11. Sick with worry
12. Climate change: instant expert
13. Great telescope race
14. The art of Saito Makoto
15. The art of Saito Makoto / Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加 (30%)、小テスト (20%)、期末試験 (50%)
総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習・復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Setting the Stage (研究社) ISBN: 4327421677

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

現在、インターネットを使って世界中のニュースを視聴することが可能となっている。つまり、研究に関する最新の情報を得るためには、海外のニュースも適宜確認しなければならない。本授業では、AFP 通信のニュースを使い、最先端の科学技術英語を学ぶ。訳読中心ではなく、英文だけで内容や要旨などを捉えられるようになることを目標にする。さらに将来、国際学会で発表ができるようにリスニングを中心とした音声面での強化を図る。毎時間単語テストを行い、語彙力を増やす。さらに、授業では速読ができるようにする。辞書を必ず持参すること。

2. キーワード

メディアイングリッシュ、リーディング、リスニング、速読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction, Unit 1: New Look for Luxury Cars
2. Unit 2: Net Surfing for Robots
3. Unit 3: Flying Solo
4. Unit 5: A NEW Dimension in Printing
5. Unit 6: New York's new Tower
6. Unit 7: 3D Fireworks
7. Unit 8: Africa's First High-Speed Train
8. Unit 9: Gambling on the Dreamliner
9. Unit 10: Wrap around Cinema
10. Unit 11: Robotic Seniors
11. Unit 12: Rerestoring the Ruins
12. Unit 15: Experimenting with Life
13. Unit 16: Space Shuttle's Final Farewell
14. Unit 17: Happy Feet to Start Walking Soon
15. Review, Listening Test
16. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点する）。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・新聞やオンラインなどで、国内外のニュースに目を通しておくこと。
- ・必ず予習をしてから授業に望むこと。

7. 教科書・参考書

教科書：AFP: Science Report (成美堂) ISBN: 9784791912889

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の基本的な運用能力を高めるために色々な場面を想定して、聞く、話す、読む、書くという英語の総合能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Meeting people for the first time.
3. Joining the crowd.
4. I have a favor to ask.
5. You're drunk, Koji.
6. Do men touch each other here?
7. Are you married?
8. So, you want to know about guns?
9. He's cute!
10. What's a stepfather?
11. Many Americans sleep naked!
12. Party tips.
13. Do you sing the National Anthem?
14. Revision
15. Revision

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%), Class participation (33%), Final test (33%).

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 教科書・参考書

教科書：Tell me why (Sanshusha) ISBN: 9784384332360

8. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

時事問題や異文化理解に関するエッセイを読みながら、総合的な英語力の向上を目指す。パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高める。また、各ユニットのテーマに関して、学生の皆さんの意見交換を行なう。適宜に各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションも行い、積極的な授業への参加を期待する。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Lesson 1: Luxury Fashion vs. Fast Fashion.
3. Lesson 2: What Are Prisons for?
4. Lesson 5: Which Way to Happiness?
5. Lesson 7: E-books.
6. Lesson 8: Abandoned Babies.
7. Lesson 9: Wine and Climate.
8. Lesson 10: Freedom in Cyberspace.
9. Lesson 11: Alternative Food Sources.
10. Lesson 14: What Is Green Business?
11. Lesson 16: Eco-friendly Cars.
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ロミオとジュリエット』一名場面より
13. 『ロミオとジュリエット』のDVD観賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的な参加態度 30%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回、辞書を持参すること。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求める。

7. 教科書・参考書

教科書：AFP World News Report（2012 年度版／成美堂）
ISBN: 978-4-7919-5085-0

8. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後に。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 斎藤 彩世

1. 概要

英語の理解を深めるために、今なお重要なのが読解である。小説、エッセイ、他言語から翻訳された英語の文章など、さまざまな文章を読むことで、根本的な英語理解を深める。また、英語理解力の向上とともに、世界で起きていることを知り、世界の人々の多様な視点に触れ、異文化理解を深めてもらいたい。さらに、毎回担当を割り当て、それについてプレゼンテーションを行ってもらうが、その過程で、各参加者は、学生や教員との意見交換を通して自らの視点を相対化し、コミュニケーションの本質を理解することが期待される。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、リスニング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. I AM from a Family of Artists (Kurt Vonnegut)
3. Backstroke (Yoko Ogawa)
4. Lost Worlds (Rachel Carson)
5. Why Japan Succeeded (Jared Diamond)
6. Virtual Violence (Ian Buruma)
7. The Other America (Michael Harrington)
8. The Lost Voice of Protest (Bob Herbert)
9. Akeelah and the Bee (Doug Atchison)
10. The Stroke of Teapots (Cynthia Ozick)
11. Unstrange Minds (Roy Richard Grinker)
12. The Private Memoirs and Confessions of a Justified Sinner (James Hogg)
13. A Society (Virginia Woolf)
14. I Don't Know Why (Sherwood Anderson)（予定）
15. テストの解説

5. 評価の方法・基準

平常点 20%、プレゼンテーション 20%、期末試験 60%を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 教科書・参考書

『Wish』（佐久間みかよ編注、研究社）ISBN: 978-4-327-42174-8

8. オフィスアワー

授業時間終了後

メール：citizen_of_somewhere_else@yahoo.co.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role.
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

7. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse) 830/V-3/2

8. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Food - Conjecture
2. City Life - Skepticism
3. Culture - Comparison / contrast
4. Environment - Validity
5. Work - Explanation
6. Health - Criticism
7. Review / Exam
8. Family - Comparison / Contrast
9. Money - Explanation
10. Gender Issues - Inference
11. Personal Issues - Validity
12. Space - Criticism
13. World Issues - Skepticism
14. Review / Exam

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Perceptia Press) ISBN: 9781411680692

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 – 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 – 5 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科・総合システム工学科
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとめた文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
第2回 Explanation (1)
第3回 Explanation (2)
第4回 Explanation (3)
第5回 Essay (1)
第6回 Essay (2)
第7回 Essay (3)
第8回 Critiques (1)
第9回 Critiques (2)
第10回 Critiques (3)
第11回 Projects (1)
第12回 Projects (2)
第13回 Presentation
第14回 Presentation
第15回 Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- 成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- 自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

8. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 7 Smoking Should Be Banned in All Public Places
3. Unit 11 How can We Prevent Suicides?
4. Unit 14 Should the Age of Adulthood Be Lowered in Japan?
5. Unit 15 Should English Be Taught in Primary Schools?
6. Unit 16 Should We Let Children Use Cellphones?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Your First Speech and Presentation（南雲堂）836.7/T-1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

総合英語 C II (アドバンスト) Comprehensive English C II

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す、特にディスカッションやスピーチを重視する。この授業を通じ、英語の発信能力を養って欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イン트로ダクション
2. Male Crisis
3. Moonstruck
4. My Internet hell
5. National stereotypes
6. Racist superheroes
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・アウトライン発表会
9. スピーチ・アウトライン書き直し
10. スピーチ・予行演習
11. スピーチ・書き直し
12. スピーチ・コンテスト (1)
13. スピーチ・コンテスト (2)
14. スピーチ・コンテスト (3)
15. スピーチ・コンテスト (4)

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書: Ideas & Issues (Advanced) 830/H-14/1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室: 共通教育棟 S408)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Nuclear Rescue Robots
3. Dr. Henry's Dilemma
4. Human Experimentation
5. Professional Experimentation
6. Chasing a Dream
7. Made with Japan
8. Eco Japan
9. Specialist or Politician
10. To Err is Human
11. No water? Technology to the Rescue
12. The Dedication of an Oyster Fisherman Saves a Forest
13. Foundation of Science Crumbling
14. The Kanemi Yusho Incident
15. Tokyo Skytree

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書 Explore (Sanshusha) ISBN: 9784384334289

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II (アドバンスト) Comprehensive English C II (Advanced)

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking (批判的思考) 能力を伸ばす。

2. キーワード

異文化理解、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Making Money
3. Male Crisis
4. Marriage
5. Moonstruck
6. My Internet Hell
7. National Stereotypes
8. News Blackout
9. Predicting the Future
10. Racist Superheroes
11. Single Parents
12. Small Planet
13. Test-tube Babies
14. Transplants
15. Violent Youth

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験…20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等…60%
- (3) Presentation…20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas & Issues (Advanced) 830/H-14/1

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目 (総合教育棟 4 階 414)
上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解(構造理解、語彙、文化的な背景)とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Story 1
3. Story 2
4. Story 3
5. Story 4 (1)
6. Story 4 (2)
7. Test 1
8. Story 5 (1)
9. Story 5 (2)
10. Story 6 (1)
11. Story 6 (2)
12. Test 2
13. Discussion 1
14. Discussion 2
15. Discussion 3
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Selected Stories of Edgar Allan Poe (Sansyusha)
ISBN: 9780194720083

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)
Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00) (総合教育棟 3 階: S313)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

国際的な雑誌の記事を読むことで、英文の読解能力の向上を目指す。また、今日の国際社会で取り上げられている多種多様な社会問題を扱うことで、それらの諸問題に対する自らの意見を英語で発信する能力を高めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解、読解力、情報発信

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Does Language “Difficulty” Speak of a Sense beyond Mere Words?
3. Does Language “Difficulty” Speak of a Sense beyond Mere Words? (2)
4. Hidden Power
5. Hidden Power (2)
6. Memories Are Made of... History Managed and Manipulated?
7. Memories Are Made of... History Managed and Manipulated? (2)
8. Review activity 1
9. New Horizons Beckon as Train Man Heads Nowhere Fast
10. New Horizons Beckon as Train Man Heads Nowhere Fast (2)
11. Great Telescope Race
12. Great Telescope Race (2)
13. Thirty Years on, Have No Lessons Been Learned from Vietnam?
14. Thirty Years on, Have No Lessons Been Learned from Vietnam? (2)
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 教科書・参考書

教科書：Setting the Stage（研究社）ISBN: 978432742167-0

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（詳細はオリエンテーションで伝える。）

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

アメリカのホームドラマを通して、構文理解に役立つ文法事項の習得、日常的な語彙及び実用的英語表現の習得を目指す。この 2 つの習得を通じて、英文読解力を養成する。さらに、「生の英語」を聞くことで、英語のリズム、発音、イントネーションに慣れ、リスニング力を向上させる。アメリカの文化、国民性を見直すきっかけにする。

2. キーワード

リーディング、リスニング、カルチュラル・リテラシー、文法理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Unit 1 Tabitha's Very Own Samantha (1)
3. Unit 2 Tabitha's Very Own Samantha (2)
4. Unit 3 Tabitha's Very Own Samantha (3)
5. Unit 4 Tabitha's Very Own Samantha (4)
6. Unit 5 Tabitha's Very Own Samantha (5)
7. Unit 6 Samantha's Secret is Discovered (1)
8. Unit 7 Samantha's Secret is Discovered (2)
9. Unit 8 Samantha's Secret is Discovered (3)
10. Unit 9 Samantha's Secret is Discovered (4)
11. Unit 10 Samantha's Secret is Discovered (5)
12. Unit 11 The Phrase is Familiar (1)
13. Unit 12 & 13 The Phrase is Familiar (2)
14. Unit 14 & 15 The Phrase is Familiar (3)
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・授業をきっかけに、アメリカのテレビ・ドラマ、映画を視聴することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Welcome to the Fantastic English World of *Bewitched!!*『奥さまは魔女』のファンタスティック・イングリッシュ・ワールド（開文社）ISBN: 978-4-87571-157-5

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。Longman Dictionary of English Language and Culture（文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き）ISBN: 0582086760

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

前期に引き続き、日本語表現と英語表現を比較することにより、更なる実用的な英語の使い方を習得することを目標とする。同時に文法的基礎知識の確立や日常生活に役立つ英語表現をととして異文化理解も深める。

2. キーワード

日英比較、文化的基礎知識、読解力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

01. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）

02. Come / Go

03. Study / Learn

04. Hear / Listen

05. Say / Tell

06. Let / Make

07. Wake up / Get up

08. Will / Be going to

09. Must / Have

10. Had better / Should

11. Shall I ...? / Will you ...?

12. Would / Used to

13. Hard / Hardly

14. Very / Much

15. 期末試験

16. 試験の説明等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Learn by Comparing (Asahi Press) 835/K-17

8. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現でできるようになることを目標とする。内容については、学生の興味に対応するため、特に「人と自然」に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション

2. A real winner (1)

3. A real winner (2)

4. Zoo dentists (1)

5. Zoo dentists (2)

6. Solar cooking (1)

7. Solar cooking (2)

8. Bird girl (1)

8. Bird girl (2)

10. Beagle patrol (1)

11. Beagle patrol (2)

12. Polar bears in trouble (1)

13. Polar bears in trouble (2)

14. 多読に挑戦

15. 定期試験

5. 評価の方法・基準

(1) 学期試験－60%

(2) 授業での小テスト－20%

(3) 授業での発表や提出物－20%

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：Snapshots from the Globe, HEINLE.

ISBN: 9781133317722

その他、適宜プリントを配布する。

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

本授業は CBS News を通してアメリカで今起きていること見聞し、リスニング力を高め、コミュニケーションの第一歩である情報を受容する力を養うことが第一目標とする。そして、その情報を各人が解釈することで、自身の考えを発展させ、物事を見る視点を広げてゆくことがさらなる目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 1 Addicted to Your Smart Phones?
3. 2 Tutoring for Tods
4. 3 Corporate Wellness Programs Gaining Popularity
5. 4 Are Kids Hurt When Moms Work?
6. 5 New Graphic Warnings for Cigarette Smokers
7. 6 Silicon Valley School: No computers in Classroom
8. 7 Buzz Words: "Skinny" the Latest to Catch on
9. 8 Learning Small Talk
10. 9 Happy Meal Target Kids
11. 10 Internships - Are They Worth it?
12. 11 Happiness 101
13. 12 Therapy Dogs Help the Sick
14. 13 Ford Going Green w/ U.S.-Grown Crops
15. 14 Haiku Poetry Helps NYC Pedestrians Stay Safe

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：CBS NewsBreak（成美堂）ISBN: 9784791912872

8. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレスはオリエンテーションの時に伝えます）

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

情報伝達の手段であるとともに人間関係を円滑にする役割を持つ言葉について、「会話のしくみ」を理解しつつ、誤解や不信感を生じないために、相手を思いやりながら真意を伝える方法についてのエッセイを読むことにより、読解力を高めるだけでなく、言葉、コミュニケーションへの関心を高める。

2. キーワード

語彙増強、多読、コミュニケーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction / The Problem is the Process
2. The Problem is the Process
3. The Problem is the Process
4. The Problem is the Process
5. The Working of Conversational Style
6. The Working of Conversational Style
7. The Working of Conversational Style
8. The Working of Conversational Style
9. The Working of Conversational Style
10. Conversational Signals and Devices
11. Conversational Signals and Devices
12. Conversational Signals and Devices
13. Conversational Signals and Devices
14. Why We don't Say What We Mean
15. Why We don't Say What We Mean

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：That's not What I meant（金星堂）

ISBN: 9784764704862

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

将来、専門の分野に進んだ際、研究に関連した論文、またインターネットで関連する分野の雑誌記事を探すことが必要になってくる。日本語で全て行えるに越したことはないが、最新の論文などはどうしても英語で読む必要が出てくる。そういった現状を踏まえて、授業ではリーディングを重点的に行い、必要となる情報を英語で確実に見つけ出していく練習をする。ニュース英語を用いて、多少長めの文章でも逐語訳をせず理解できるようにする。扱うユニットは社会問題からビジネスまで幅広いため、専門分野以外の知識を増やしてほしい。毎時間単語テストを行い、語彙の定着を図る。また、速読ができるようになることを目標とする。

2. キーワード

科学英語、リスニング、リーディング、速読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction, Unit 1: Rogge concerned about Olympic nationality switches
2. Unit 2: Vogue bans too-thin, underage fashion models as unhealthy
3. Unit 4: Top court stresses nature of crime over offender's age
4. Unit 5: Reckless cyclists face crackdown
5. Unit 6: Crested ibids chick in wild leaves nest for first time
6. Unit 7: Rare eclipse delivers spectacle despite cloudy weather perfect glowing ring thrills millions nationwide
7. Unit 8: Japan marks one year since quake, tsunami disaster
8. Unit 9: Low incomes drive surge in number of never-marrieds
9. Unit 10: Organ transplant from child's 'a bright ray of hope'
10. Unit 12: Zuckerberg's post-IPO wedding is smart legal move
11. Unit 13: Steve Jobs, Apple co-founder, dies at 56
12. Unit 16: U.S. Air Force civilian worker given 18 months over fatal car crash
13. Unit 17: Tuesday's havoc laid to rare 'May Storm'
14. Unit 20: Titanic centennial an epic event
15. Review, Listening Test
16. Exam

5. 評価の方法・基準

原則として、定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点する）。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・新聞やオンラインなどで、国内外のニュースに目を通しておくこと。
- ・必ず予習をしてから授業に望むこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Fly High through News in English（三修社）ISBN: 9784384334302

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 教科書・参考書

教科書：The UK and the USA (Compare and Contrast)（南雲堂）830/O-10

8. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

日本の企業を代表する創業者のエピソードを取り上げ、各ジャンル特有の語彙をはじめ総合的な英語力の向上を目指す。精読から単語、熟語、文法事項の再確認をする。また、パラグラフ・リーディングと共に多読による速読のスキルを身に付ける。プレゼンテーションをする機会を設けることで、分かりやすいハンドアウトの作り方や発表の仕方を学ぶ。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、多読、異文化及び時事問題の理解、プレゼンテーションの仕方

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 1: Soichiro Honda – 本田技研工業（株）
3. Unit 1: Soichiro Honda
4. Unit 2: Masao Ogura – ヤマトホールディングス（株）
5. Unit 2: Masao Ogura
6. Unit 5: Momofuku Ando – 日清食品ホールディングス（株）
7. Unit 5: Momofuku Ando
8. Unit 6: Konosuke Matsushita – パナソニック株式会社
9. Unit 6: Konosuke Matsushita
10. Unit 8: Akio Morita – ソニー株式会社
11. Unit 8: Akio Morita
12. 英文学訪問：
シェイクスピア『ヴェニスの商人』一名場面より
13. 『ヴェニスの商人』の DVD 観賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回、辞書を持参すること。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求める。

7. 教科書・参考書

教科書: Great Japanese Entrepreneurs (2013 年度版 / 金星堂)
ISBN: 9784764739604

8. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後に。

メールアドレス: scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 斎藤 彩世

1. 概要

英語は世界中で使用される言語となり、もはやイギリスだけが英語と結びつく世の中ではなくなったが、言語と文化は切り離せないものであるため、あえてイギリス文化について英語で学習したい。特に民謡を取り上げるが、民謡とは、その時代に生きる誰もが知っているものであるため、時代の思想や風俗などが色濃く反映されている。その民謡について分析した長めの英文の読解を中心に、英語理解と異文化理解を深めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、ライティング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Weaver and the Factory Maid: Industrialization
3. Susie Cleland: Mixed Marriage
4. Jack Hall: The Death Penalty
5. John Barleycorn: Going up the Pub
6. Fighting for Strangers: A Military Career
7. Parcel of Rogues: Not just England
8. The Cruel Brother: Cultural Differences
9. John Peel: Hunting, Fishing and Poaching
10. Down in Yon Forest: The Search for Meaning
11. The Plains of Waterloo: Attitudes to the French
12. Hard Times of Old England: The World of Work
13. Hopping down in Kent: Modern Farming
14. The Cruel Mother: Motherhood
15. テストの解説

5. 評価の方法・基準

平常点 20%、プレゼンテーション及びライティングペーパー 20%、期末試験 60%を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習と積極的な授業への参加を求める。

7. 教科書・参考書

『フォークソングの視点から見た現代イギリス』(Simon Rosati, 英宝社) ISBN: 9784269150324

8. オフィスアワー

授業時間終了後

メール: citizen_of_somewhere_else@yahoo.co.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

7. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse) 830/V-3/2

8. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press) ISBN: 9784939130960

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 – 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 – 5 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points: a) prepare thoroughly for class b) do writing exercises on your own

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う。
(工学部学修細則第11条2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.
Research topics using the internet.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版) ISBN: 9780582403987

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- Week 1 Explaining Japanese Sports and clubs
- Week 2 Explaining Japanese Music
- Week 3 Explaining Japanese Food
- Week 4 Explaining Japanese Handicrafts
- Week 5 Explaining Japanese Holidays
- Week 6 Explaining Japanese Games
- Week 7 Explaining Japanese Cities and Places
- Week 8 Explaining Japanese Relaxation Practices
- Week 9 Explaining Famous Japanese People
- Week 10 Explaining Japanese Superstitions
- Week 11 Explaining Japanese Animations
- Week 12 Explaining Japanese Arts and Theater
- Week 13 Explaining Japanese Etiquette and Customs
- Week 14 Explaining Japanese Buildings and Gardens
- Week 15 Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90% , Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.
Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793

8. オフィスアワー

Monday : 1:00-4:00
Tuesday : 12:00-4:00

中級英語Ⅰ Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、スピーチの実践を中心に、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Chapter 1 Herbivorous Males
3. Chapter 2 Galapagized Japan
4. Chapter 3 Uniformity
5. Chapter 4 Universities in Japan
6. Chapter 5 English as a Lingua Franca
7. Chapter 6 Disaster Spirit
8. Chapter 7 Immigrants Needed
9. Chapter 8 Manga
10. Chapter 9 Lack of Entrepreneurs
11. アウトライン発表会
12. スピーチ・コンテスト予行演習
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Good-bye, Galapagos: Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ・ラーニング) ISBN: 9784863122161

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。
(研究室：共通教育棟 S408)

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport 11. A star is born... or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
 - b) do writing exercises on your own
- 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う。
(工学部学修細則第 11 条 2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.
Research topics using the internet.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版) ISBN: 9780582403987

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality/quantity/size/shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

	Topic 1	Topic 2	Topic 3
1	Subdisciplines	Areas of Interest	Problems/solutions
2	Gas turbines	Pumps	Ishikawa Diagrams
3	Heat transfer	Distillation	Signal processing
4	Polymers/plastics	Refrigeration	Solar energy
5	Transformers	Lasers	Combustion engine
6	Corrosion	Soil erosion	Bridges
7	Urban design	Pneumatics	Seismic engineering
8	Elect.resistance	Structural design	Process control
9	Image processing	River channel	Electromagnetism
10	Control theory	Conservation-mass	Thermodynamics Laws
11	High Definition	TV Water purification	Hydraulic engineering
12	Environmental	Tunnels	Highways
13	Electric lights	Artificial intell.	Maglev trains
14	Metals	Ceramics	Plastics
15	Review	Review	Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering Robert Long. Lulu Press. 507.7/L-3

8. オフィスアワー

Monday : 1:00-4:00

Tuesday : 10:00-5:00

上級英語AⅠ Advanced English AⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning Japanese culture.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- 発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Crazy Fashions the Norm Paired Interviews
2. Marriage Under the Microscope Consultations
3. Wireless Japan Debates
4. My Grandfather's Binbogami Group Work
5. Review Review
6. E-Commerce Surveying
7. Rap and Hip-Hop Music Paired Interviews
8. Review Review
9. Children: A Different Breed Consultations
10. Competitive Sports Debates
11. Women Managers Group Work
12. Social Activists Surveying
13. Review
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN: 1-4116-28039

8. オフィスアワー

Monday : 10:00 - 5:00

Tuesday : 10:00 - 5:00

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：（1）・2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択
単位数：1 単位
担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students better express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. More emphasis is on longer and more developed ideas. Fluency is improved with students having well-developed paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning cultural themes from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネィティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1.	Family	Focus on questions and answers
2.	Beauty	Focus on assertions and disclaimers
3.	Education	Focus on comments and reflections
4.	Expertise	Focus on comparisons and suggestions
5.	Individualism	Focus on observations and criticisms
6.	Entertainment	Focus on preferences and recommendations
7.	Review and exam	
8.	Exam	
9.	Oligation	Focus on explanations and excuses
10.	Sports	Focus on comparison and complaint
11.	Power	Focus on claims and conjunctures
12.	Dependence	Focus on descriptions and testimonies
13.	Discipline	Focus choices and judgments
13.	Internet Forum	Practice: All speech acts
14.	Review	
15.	Exam	

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 80% Exams 20% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Culture Compass, by Robert Long. Lulu Press. ISBN: 978-1-4116-4484-7

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 – 4 : 00
Tuesday : 1 : 00 – 4 : 00

上級英語 B I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科
学年：（1）・2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択
単位数：1 単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の3点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 英文読解
- 第3回 議論・発表
- 第4回 英文読解
- 第5回 議論・発表
- 第6回 英文読解
- 第7回 議論・発表
- 第8回 英文読解
- 第9回 議論・発表
- 第10回 英文読解
- 第11回 議論・発表
- 第12回 英文読解
- 第13回 議論・発表
- 第14回 英文読解
- 第15回 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70%） 期末課題（30%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

辞書を持参すること。
授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking（批判的思考）能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験…20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等…60%
- (3) Presentation…20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）
 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科
 学年：(1)・2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：1単位
 担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の 3 点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- 第 1 回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第 2 回 英文読解
- 第 3 回 議論・発表
- 第 4 回 英文読解
- 第 5 回 議論・発表
- 第 6 回 英文読解
- 第 7 回 議論・発表
- 第 8 回 英文読解
- 第 9 回 議論・発表
- 第 10 回 英文読解
- 第 11 回 議論・発表
- 第 12 回 英文読解
- 第 13 回 議論・発表
- 第 14 回 英文読解
- 第 15 回 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70%） 期末課題（30%）
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。
 辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

上級英語 B II Advanced English II

対象学科（コース）：全学科

学年：2・3・4 年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

国際社会において、英語でコミュニケーションをするうえで重要なのは、いかに自分から情報を発信できるかである。本講義では、「日本文化」「社会問題」「環境問題」などの、身の回りの題材に関して自分なりの考えを持ち、それを英語で明確に伝える能力を育むことを目標とする。

2. キーワード

情報発信、運用能力、国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 英文読解・英語聴解
3. 英文読解・英語聴解
4. 英文読解・英語聴解
5. 議論・発表
6. 議論・発表
7. 議論・発表
8. 議論・発表
9. 英文読解・英語聴解
10. 英文読解・英語聴解
11. 英文読解・英語聴解
12. 議論・発表
13. 議論・発表
14. 議論・発表
15. 議論・発表

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（プレゼンテーション）とレポートを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回英英辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（詳細はオリエンテーションで伝える。）

上級英語 C I Advanced English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' efforts in class will be evaluated by weekly assignments and presentations. Extra credit can be earned through writing presentations related to new technology in the students' own field of study. The presentations will focus on explaining the technology and then its potential impact on society, as well as effectively answering questions from the audience.

2. キーワード

Communication, debate, critical thinking

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. How do you make a good first impression
2. What makes food taste good?
3. What does it take to be successful?
4. Discussion and fluency review
5. How has technology affected your life?
6. Why do people help each other?
7. Does advertising help or harm us?
8. Discussion and fluency review
9. Why do people take risks
10. How can we make cities better places to live?
11. How can a small amount of money make a big difference?
12. Do people communicate better now than in the past?
13. Discussion and fluency review
14. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Q: Skills for Success: Reading and Writing (Oxford)
ISBN: 9780194756228

8. オフィスアワー

Monday : 1:00-4:00
Tuesday : 10:00-5:00
long@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 C II Advanced English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：3・4 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Peace around the World
3. Click Here!
4. What's in the News?
5. Heroes and Villains
6. Review Test 1
7. Family Matters
8. Let's Change the Subject!
9. Adventures in Science
10. Extend Reading 2
11. The Company We Keep
12. Stressed Out!
13. Shock Tactics
14. Extend Reading 3
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Quick Smart English Advanced (Macmillan) ISBN: 9784777363032

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）
（総合教育棟 3 階：S313）

技術英語 I Technical English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Corrosion	L.A. network	Fluid Mechanics	Struct.	Analysis Elect. Resistance
2. Bonding	P-to-P Network	Mechatronics	Seismic Eng.	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams Elect.	Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Net.	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Opt.	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews/Exams				
7. Absorption	Software Eng.	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical chem.	Computer Arch.	Drafting	Fire Protection	Voltage
9. Catalysis	Operating systems	Piping	Geotechnical Eng.	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals/Fitting	Transport Eng.	Microelectronics
11. Chemical reactors	Artificial Intell.	Values	Environmental Eng.	Signal Processing
12. Reviews/Presentations				
13. Reviews/Presentations				
14. Reviews/Presentations				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen, Perceptia Press ISBN: 9784939130939

8. オフィスアワー

Monday：1：00－4：00
Tuesday：10：00－5：00
long@dhs.kyutech.ac.jp

技術英語Ⅱ Technical English II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and writing assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Thermodynamics	Program Paradigm	Aerospace eng.	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	Triodes
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Erosion	Emissions
5. Biochemical Eng.	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Manage.	Hi.-Def. TV
6. Reviews / Exams				
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage	Transmission
10. Polymers	Theories-computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse engineering	Refrigeration	Hazardous Waste	PLC
12. Review				
13. Review				
14. Exam				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Perceptia Press 507.7/L-2/2

8. オフィスアワー

Monday : 1:00-4:00

Tuesday : 10:00-5:00

外国系科目（初修外国語）

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達的手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母（国）語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることに寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。

文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、とすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知ること、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目（各一単位）が選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

入学時の4月に「基礎ドイツ語AⅠ」又は「基礎中国語AⅠ」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更できない。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語AⅠ」（1年前期）、「基礎ドイツ語AⅡ」（1年後期）の2科目が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語AⅠ」（1年前期）、「基礎中国語AⅡ」（1年後期）の2科目が必修となる。

2年次に3科目目を履修する場合、ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」のうち1科目を履修しなければならない。また、中国語を選んだ学生は「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」のうち1科目を履修しなければならない。「基礎ドイツ語B」と「基礎中国語B」はクラス指定になっているので、それぞれ指定のクラスで履修する。「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」、「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」はどのクラスを受講することも可能だが、履修希望者が多い場合は履修を制限する場合がある。また、年度によっては開講されない場合もある。

2年次終了時まで「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」または「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」のどの単位も修得できなかった場合は、3年次以降、学生便覧の別表第1「人間科学科目履修課程表 1.(1)人間科学基礎科目」の備考欄に*印が記載されている外国語科目（「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」「ドイツ語CⅠ」「ドイツ語CⅡ」「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」「ロシア語Ⅰ」「ロシア語Ⅱ」「韓国（朝鮮）語Ⅰ」「韓国（朝鮮）語Ⅱ」）のうちからどの科目を履修してもよい。

中国語の履修を希望する学生は、第1回目の「基礎中国語AⅠ」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語AⅡ」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

話法の助動詞、未来形

動詞の3基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

柴田隆ほか「ヴィッテンベルクでドイツ語・文法」（同公社）
ISBN: 9784810208757

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語文法 異文化 国際理解

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。（VTR と写真使用）

第2回 あいさつ

第3回 発音・アルファベット

第4回 自己紹介（動詞の現在人称変化）

第5回 趣味と仕事（不規則動詞）

第6回 お買い物1（名詞の性と格変化、複数形）

第7回 お買い物2（形容詞）

第8回 中間まとめ

第9回 食生活（命令形）

第10回 私の家族（所有冠詞、人称代名詞）

第11回 つづき

第12回 旅行 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。（話法の助動詞）

第13回 つづき

第14回 自分の一日（分離動詞）

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。（家、衣服、食事、家庭他）

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業で教室で販売します。2,520円です。

参考書 色々な問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

{0} 発音 Stufe 1

{1} 動詞の現在人称変化（1）

／たずね方／2人称のSieとdu発音 Stufe 2

{2} 名詞の性と冠詞／seinとhaben／Ihrとmein／定形第2位
／否定の語nicht

{3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／
名詞の複数形／否定冠詞kein

{4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕山本 淳「じゃあ、またあした！」コンパクト版（同学社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

第1回～第2回 つづり字の読み方と発音 挨拶をする

第3回～第4回 動詞の人称変化、文の作り方 知り合いになる

第5回～第6回 文法上の性と格 食べ物の注文をする

第7回～第8回 冠詞類 買い物の相談をする

第9回～第10回 不規則変化動詞、命令形 食事の相談をする

第11回～第12回 前置詞の格支配 どこに行くか尋ねる

第13回～第14回 複数形 市場で果物などをかう

第15回 前期のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験 50%、演習 50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕新倉・亀ヶ谷：ゲナウ！グラマティック（第三書房）

ISBN: 9784808610463

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を ABC から学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語文法 異文化 国際理解

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)
- 第2回 あいさつ
- 第3回 発音・アルファベット
- 第4回 自己紹介（動詞の現在人称変化）
- 第5回 趣味と仕事（不規則動詞）
- 第6回 お買い物 1（名詞の性と格変化、複数形）
- 第7回 お買い物 2（形容詞）
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活（命令形）
- 第10回 私の家族（所有冠詞、人称代名詞）
- 第11回 つづき
- 第12回 旅行 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。（語法の助動詞）
- 第13回 つづき
- 第14回 自分の一日（分離動詞）
- 第15回 ドイツの映画
映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。（家、衣服、食事、家庭他）
- 第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書は1 回目の授業で教室で販売します。2,520 円です。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

アルファベット・発音

動詞の現在人称変化（1）

名詞と冠詞の格変化

名詞の複数形・人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）・命令法

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

話法の助動詞・未来形・非人称動詞

分離動詞と非分離動詞・接続詞

動詞の三基本形・過去人称変化

現在完了・再帰表現

形容詞の格変化

形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞

関係代名詞・指示代名詞

受動態

接続法

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

前田良三他：身につくドイツ文法＜Leicht＞（郁文堂）

ISBN:9784261011869, ISBN: 9784261012316（Ver.2）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（前期第 1 回～15 回）。

アルファベット・発音

動詞の現在人称変化（1）

名詞と冠詞の格変化

名詞の複数形・人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）・命令法

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

語法の助動詞・未来形・非人称動詞

分離動詞と非分離動詞・接続詞

動詞の三基本形・過去人称変化

現在完了・再帰表現

形容詞の格変化

形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞

関係代名詞・指示代名詞

受動態

接続法

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

前田良三他：身につくドイツ文法＜Leicht＞（郁文堂）
ISBN: 9784261011869, ISBN: 9784261012316（Ver.2）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（前期第 1 回～15 回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

語法の助動詞、未来形

動詞の 3 基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

西本美彦「文法システム 15 ― 新改訂版」（同学社）

ISBN: 9784810208627

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

話法の助動詞、未来形

動詞の3基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

柴田隆ほか「ヴィッテンベルクでドイツ語・文法」（同公社）
ISBN: 9784810208757

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

（1）導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

（2）定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- （3）展開期——豊かな表現をめざして
- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記（2）、（3）の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：前期と同じものを使用する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

{5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化

{6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化

{7} 話法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）

{8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞

{9} 現在完了／話法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕山本 淳「じゃあ、またあした！」コンパクト版（同学社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の 3 基本形・過去
現在完了・過去完了
話法の助動詞・未来
形容詞の格変化・名詞化
zu 不定詞・man
比較
再帰動詞・非人称動詞
受動・分詞
関係詞・指示代名詞
接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- | | | |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 第1回～第2回 | 形容詞の格変化、人称代名詞 | 空腹などを訴える |
| 第3回～第4回 | 話法の助動詞、未来形 | 外出に誘う |
| 第5回～第6回 | 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞 | 駅で列車の出発時刻などを尋ねる |
| 第7回～第8回 | ZU不定詞 | 相談にのってくれるように頼む
比較表現 物事を比べる |
| 第9回～第10回 | 三基本形、過去人称変化、接続詞 | ぶつぶつ文句を言う |
| 第11回～第12回 | 現在完了形、過去完了形 | 何をしたかを尋ねる |
| 第13回～第14回 | 受動形 | 招待される 関係文 休暇の計画を立てる |
| 第15回 | 後期のまとめ | |

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験 50%、演習 50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕新倉・亀ヶ谷：ゲナウ！グラマティック（第三書房）

ISBN: 9784808610463

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記（2）、（3）の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：前期と同じものを使用する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取り入れながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

語法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

アルファベット・発音

動詞の現在人称変化（1）

名詞と冠詞の格変化

名詞の複数形・人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）・命令法

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

話法の助動詞・未来形・非人称動詞

分離動詞と非分離動詞・接続詞

動詞の三基本形・過去人称変化

現在完了・再帰表現

形容詞の格変化

形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞

関係代名詞・指示代名詞

受動態

接続法

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

前田良三他：身につくドイツ文法＜Leicht＞（郁文堂）

ISBN: 9784261011869, ISBN: 9784261012316（Ver.2）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の 3 基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

アルファベット・発音

動詞の現在人称変化（1）

名詞と冠詞の格変化

名詞の複数形・人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）・命令法

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

語法の助動詞・未来形・非人称動詞

分離動詞と非分離動詞・接続詞

動詞の三基本形・過去人称変化

現在完了・再帰表現

形容詞の格変化

形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞

関係代名詞・指示代名詞

受動態

接続法

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

前田良三他：身につくドイツ文法＜Leicht＞（郁文堂）

ISBN: 9784261011869, ISBN: 9784261012316（Ver.2）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

語法の助動詞、未来形

動詞の 3 基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

西本美彦「文法システム 15 ― 新改訂版」（同学社）

ISBN: 9784810208627

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)
- 第2回 あいさつ
CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。
- 第7回 お買い物2
roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。
- 第11回 お願いがあります
困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

「ドイツ美術の旅」、荻野蔵平 他、朝日出版、2400 円 ISBN: 9784255253619

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～15 回）。

Ankunft in Berlin
Beim Bäcker
Sprachkurs
In der Mensa
Beim Arzt
Beim Studentenwohnheim
Zum Wannsee
Beim Friseur
In einem Biergarten
In einer Boutique
Philipps Geburtstag
Vor der Abreise

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20％程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

清野智昭：ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン]
DVD 付き（朝日出版社）840/S-21

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲーリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)
- 第2回 あいさつ
CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。
- 第7回 お買い物2
roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しよう。
- 第11回 お願いがあります
困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

「一緒に話そう、ドイツ語」(Ein Geist in Nuernberg ?)、清野智昭 他、同学社、2500 円 ISBN: 9784810207354

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

Ankunft in Berlin
Beim Bäcker
Sprachkurs
In der Mensa
Beim Arzt
Beim Studentenwohnheim
Zum Wannsee
Beim Friseur
In einem Biergarten
In einer Boutique
Philipps Geburtstag
Vor der Abreise

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20％程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

清野智昭：ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン]
DVD 付き（朝日出版社）840/S-21

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

「シュトラッセ・ノイ Ver.20」、立教大学編集、朝日出版、2300 円 ISBN: 9784255253510

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A I、A II で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その 2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60％以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を ABC から学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
 世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)
- 第2回 あいさつ
 CD を使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
 ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
 正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
 自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
 自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
 買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
 冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。
- 第7回 お買い物2
 roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
 食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
 自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。
- 第11回 願いがあります
 困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
 話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
 駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
 駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布 しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

アルファベット・発音
ベルリン大好き
ワールドカップサッカー
ビール 1 杯
ドイツ人とパン
グリム童話
アウトバーン
環境保護
ドイツの人気バンド Tokio Hotel
ドイツの歴史
色で表すドイツの政治
手紙
再生可能エネルギー

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：フィール・シュパース！＜ Ver.3 ＞（郁文堂）
ISBN: 9784261012354

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第 1 回 Lektion 10 語法の助動詞
第 2 回 Lektion 10 “
第 3 回 Lektion 11 過去形
第 4 回 Lektion 11 現在完了形
第 5 回 Lektion 11 “
第 6 回 Lektion 12 受動態
第 7 回 Lektion 13 比較
第 8 回 Lektion 13 “
第 9 回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
第 11 回 Lektion 14 “ まとめ小テスト
第 11 回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
第 12 回 Lektion 15 “ まとめ小テスト
第 13 回 まとめ演習 まとめ小テスト
第 14 回 まとめ演習 まとめ小テスト
第 15 回 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

「3. 11 福島」(Freitag, 11. März 2011 Fukushima)、石井寿子 他、同学社、1600 円 ISBN: 9784810206951

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。（VTRと写真使用）
- 第2回 あいさつ
CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
正しい発音を意識する。（地図・雑誌他使用）
- 第4回 自己紹介
自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
自分について話す練習をする。（趣味、勉強、将来の仕事他）
- 第6回 お買い物1
買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。
- 第7回 お買い物2
roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。（市場、専門店、セール、環境問題）
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しよう。
- 第11回 お願いがあります
困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。（家、衣服、食事、家庭他）

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。（家、衣服、食事、家庭他）
つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色々な問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A I、A II で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その 2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

アルファベット・発音
 ベルリン大好き
 ワールドカップサッカー
 ビール 1 杯
 ドイツ人とパン
 グリム童話
 アウトバーン
 環境保護
 ドイツの人気バンド Tokio Hotel
 ドイツの歴史
 色で表すドイツの政治
 手紙
 再生可能エネルギー

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：フィール・シュパース！< Ver.3 >（郁文堂）
 ISBN: 9784261012354

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる。

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる。

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取り入れながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

小塩 節「新しいドイツ語 1 A」朝日出版社 ISBN: 9784255250038

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

ドイツ語B I German B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語 B の内容を発展させる。

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

1. 到着
2. ホテル探し
3. ホテルにて
4. レストランで
5. 買い物
6. アパート探し
7. バイキング
8. 招待される
9. 医者にて
10. 手紙

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語 B II German B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次の基礎ドイツ語 A を踏まえドイツ語の基礎を補完し、次の段階につながるドイツ語の学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

アルファベット・発音
ベルリン大好き
ワールドカップサッカー
ビール 1 杯
ドイツ人とパン
グリム童話
アウトバーン
環境保護
ドイツの人気バンド Tokio Hotel
ドイツの歴史
色で表すドイツの政治
手紙
再生可能エネルギー・発音

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：フィール・シュパース！＜ Ver.3 ＞（郁文堂）
ISBN: 9784261012354

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語 C I German C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語のより高度な表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式をより深く理解する。

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

- ・人との関わり
- ・家族と友人関係
- ・健康と医療
- ・住環境と家事
- ・環境と自然
- ・旅行と交通

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ二～三週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、外国語の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

ドイツ語 C II German C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語のより高度な表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式をより深く理解する。

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

- ・食生活
- ・公的機関
- ・学校と教育
- ・仕事と職業
- ・余暇と文化的な生活
- ・政治と共同体

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ二～三週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、外国語の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 こんにちは
5. テキスト第二課 また明日
6. テキスト第三課 ありがとう
7. テキスト第四課 お久しぶり
8. テキスト第五課 出迎える
9. テキスト第六課 動詞：是
10. テキスト第七課 基本語順 S + V + O
11. テキスト第八課 助動詞：想
12. テキスト第九課 動詞：在
13. テキスト第十課 数の言い方
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbq.jp

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音 I 声調、単母音、子音
3. 発音 II 二重母音と三重母音
4. 発音 III 鼻母音、軽声
5. 発音 IV 変調、アル化
6. 第 1 課 自己紹介
7. 第 1 課 人称代名詞、動詞述語文
8. 第 2 課 出合い
9. 第 2 課 指示代名詞、疑問詞疑問文
10. 復習
11. 第 3 課 陳さんの部屋
12. 第 3 課 存在文、方位詞
13. 第 4 課 陳芳さんの故郷
14. 第 4 課 主述述語文、反復疑問文
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき 40 人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン!』（紅粉芳恵・陳賛 同社社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音Ⅰ 声調、単母音、子音
3. 発音Ⅱ 二重母音と三重母音
4. 発音Ⅲ 鼻母音、軽声
5. 発音Ⅳ 変調、アル化
6. 第1課 自己紹介
7. 第1課 人称代名詞、動詞述語文
8. 第2課 出合い
9. 第2課 指示代名詞、疑問詞疑問文
10. 復習
11. 第3課 陳さんの部屋
12. 第3課 存在文、方位詞
13. 第4課 陳芳さんの故郷
14. 第4課 主述述語文、反復疑問文
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき 40 人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同社社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 こんにちは
5. テキスト第二課 また明日
6. テキスト第三課 ありがとう
7. テキスト第四課 お久しぶり
8. テキスト第五課 出迎える
9. テキスト第六課 動詞：是
10. テキスト第七課 基本語順 S + V + O
11. テキスト第八課 助動詞：想
12. テキスト第九課 動詞：在
13. テキスト第十課 数の言い方
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90％、平常点 10％、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbiq.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、繁体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 年月日・日曜日・年令表現
3. テキスト第十二課 量詞の使い方
4. テキスト第十三課 時刻の言い方
5. テキスト第十四課 アスペクト “了”
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 助動詞：能・可以
8. テキスト第十五課 助動詞：会
9. テキスト第十六課 現在進行形
10. テキスト第十六課 電話のかけ方
11. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
12. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
13. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
14. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbq.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第 5 課 アルバイト
3. 第 5 課 推量表現、場所表現
4. 第 6 課 レストラン
5. 第 6 課 量詞、様態補語
6. 復習
7. 第 7 課 スポーツ
8. 第 7 課 可能表現、連動文
9. 第 8 課 パソコン
10. 第 8 課 二つの “了”
11. 復習
12. 第 9 課 夏休み
13. 第 9 課 選択疑問文、比較文
14. 復習
15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同人社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第 5 課 アルバイト
3. 第 5 課 推量表現、場所表現
4. 第 6 課 レストラン
5. 第 6 課 量詞、様態補語
6. 復習
7. 第 7 課 スポーツ
8. 第 7 課 可能表現、連動文
9. 第 8 課 パソコン
10. 第 8 課 二つの“了”
11. 復習
12. 第 9 課 夏休み
13. 第 9 課 選択疑問文、比較文
14. 復習
15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同出版社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、繁体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 年月日・日曜日・年令表現
3. テキスト第十二課 量詞の使い方
4. テキスト第十三課 時刻の言い方
5. テキスト第十四課 アスペクト “了”
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 助動詞：能・可以
8. テキスト第十五課 助動詞：会
9. テキスト第十六課 現在進行形
10. テキスト第十六課 電話のかけ方
11. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
12. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
13. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
14. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験 90％、平常点 10％、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbiq.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 第1課、第2課 復習
3. 第1課、第2課 暗唱
4. 第3課、第4課 復習
5. 第3課、第4課 暗唱
6. 第5課、第6課 復習
7. 第5課、第6課 暗唱
8. 第7課、第8課 復習
9. 第7課、第8課 暗唱
10. 第9課 復習
11. 第9課 暗唱
12. 第10課 デートの誘い
13. 第10課 暗唱
14. 第11課 夢
15. 第11課 暗唱

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同学社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 第1課、第2課 復習
3. 第1課、第2課 暗唱
4. 第3課、第4課 復習
5. 第3課、第4課 暗唱
6. 第5課、第6課 復習
7. 第5課、第6課 暗唱
8. 第7課、第8課 復習
9. 第7課、第8課 暗唱
10. 第9課 復習
11. 第9課 暗唱
12. 第10課 デートの誘い
13. 第10課 暗唱
14. 第11課 夢
15. 第11課 暗唱

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同学社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 第1課、第2課 復習
3. 第1課、第2課 暗唱
4. 第3課、第4課 復習
5. 第3課、第4課 暗唱
6. 第5課、第6課 復習
7. 第5課、第6課 暗唱
8. 第7課、第8課 復習
9. 第7課、第8課 暗唱
10. 第9課 復習
11. 第9課 暗唱
12. 第10課 デートの誘い
13. 第10課 暗唱
14. 第11課 夢
15. 第11課 暗唱

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同人社）

8. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. 発音のまとめ①
2. 発音のまとめ②
3. 第一課 名詞述語文
4. 第二課 自己紹介
5. 第三課 形容詞述語文
6. 復習
7. 第四課 数・日付の言い方
8. 第五課 動詞述語文
9. 第六課 存在文
10. 復習
11. 第七課 助動詞・反復疑問文
12. 第八課 助動詞
13. 第九課 経験の表現など
14. 第十課 料理を注文する表現など
15. 復習

5. 評価の方法・基準

期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『〈新版〉中国語 10 課』（方如偉・王智新・鎧屋一 白水社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

中国語 A Chinese A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国、外国語、異文化、会話

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基礎的な文法をマスターする。
- ③基本的な会話ができるようになる。
- ④中国に対する知識を増やす。

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習
2. 第1課 あなたも留学生ですか
3. 第2課 アルバイトする
4. 第3課 レストランで
5. 第4課 カラオケに行く
6. 第5課 あなたは歌がうまい
7. 第6課 家族写真
8. 第7課 シャツを買う
9. 第8課 誕生パーティー
10. 第9課 DVDを見る
11. 第10課 夏休み
12. 第11課 学園祭
13. 第12課 スキーをする
14. 第13課 診察を受ける
15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『しゃべっていいとも 中国語 2 〜ステップアップ編〜』（陳淑梅・劉光赤著 朝日出版社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

中国語 B I Chinese B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国、外国語、異文化、社会事情

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基本的な文法をマスターする。
- ③中国に対する知識を増やす。
- ④簡単な文章の聴きとり・作文ができるようになる。

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス
2. 第1課 自己紹介
3. 第2課 わたしの家族
4. 第3課 インターネット
5. 第4課 デート
6. 第5課 温泉旅行
7. 第6課 趣味
8. 第7課 ともだち
9. 第8課 会食
10. 第9課 目覚まし時計
11. 第10課 アルバイト
12. 第11課 冬休み
13. 第12課 留学
14. 文法のまとめ 1・2・3
15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『2 冊目の中国語 〜講読クラス〜』

（劉穎・柴森・小澤正人著 白水社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

中国語 B II Chinese B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国、外国語、異文化、社会事情

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基本的な文法をマスターする。
- ③中国に対する知識を増やす。
- ④簡単な文章の聴きとり・作文ができるようになる。

4. 授業計画

日常生活や精神生活のさまざまな場面における表現方法を知る：

- ・対人関係
- ・住環境
- ・外国文化の受容
- ・交通事情
- ・食生活とその変化
- ・公的機関
- ・近年の社会事情
- ・仕事と職業
- ・余暇と文化的な生活
- ・伝統的な祭日

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ一～二週をかけて学習する。

5. 評価の方法・基準

定期試験に平常点を加味し、合計 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席することが単位取得の必須条件である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

ロシア語Ⅰ Russian I

対象学科（コース）：全学科 学年：3 年次 学期：前期

単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
- 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
- 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
- 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
- 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
- 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
- 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名（名詞の単数と複数）
- 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
- 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語（動詞の人称変化形）
- 第10回 テーマ「第2課②」趣味（名詞の対格）
- 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
- 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第15回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

5. 評価の方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20 分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

ロシア語Ⅱ Russian II

対象学科（コース）：全学科 学年：3 年次 学期：後期

単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

I に引き続き、ロシア語の文法を学修する。テキストの講説とその応用としての対話練習を行う。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介（名詞の前置格）
- 第2回 テーマ「第3課②」職業（形容詞）
- 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
- 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
- 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活（動詞の過去）
- 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
- 第6回 テーマ「第4課③」訪問（動詞の体）
- 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
- 第8回 テーマ「第5課①」余暇（動詞の未来形）
- 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
- 第10回 テーマ「第5課③」訪問（動詞の命令形）
- 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第15回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

5. 評価の方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20 分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

韓国（朝鮮）語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいえないです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきます。この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国文化

3. 到達目標

- ①韓国語の文字と発音の習得
- ②基礎的な文法の学習
- ③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

5. 評価の方法・基準

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

「楽しく学ぶ」ことがモットーの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題、小テストなどが苦にならない、ヤル気ある学生の受講を望みます。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫 「レッスン韓国語Ⅰ」太成出版社
（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介いたします。）

8. オフィスアワー

E-mail : gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国（朝鮮）語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

基本的には「韓国（朝鮮）語Ⅰ」の続きとして進めていきます。（しかし、受験生のほとんどが初学習者の場合にはこの限りではありません。前期の復習になる可能性もあります。）講義では、ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を学習します。韓国語の読み、書き、聞く、話す力を養います。

2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国文化

3. 到達目標

- ①基礎的な文型及び文法の学習
- ②やさしい日常会話の習得
- ③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2 と時刻の読み方
- ・自己紹介
- ・助詞 1、2、3
- ・楽しい会話 1、2
- ・否定形
- ・過去形
- ・尊敬形と連体形

5. 評価の方法・基準

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①定期試験、②出席、③宿題や発表、小テストによる総合評価。

7. 教科書・参考書

韓国（朝鮮）語Ⅰ参照。
桂林春・桂文姫「レッスン韓国語Ⅰ」太成出版社

8. オフィスアワー

E-mail : gyelc0926@yahoo.co.jp